

やまえーし通信

山内ふるさと絵屏風へ 未来につなげよう記憶遺産

山内エコクラブは、平成二十一年から、里山の生活を見える化しようとする高年齢者からの聞き書き活動を行ってきました。そして、悲願でありました「ふるさと絵屏風」づくりに平成二十八年度から着手しました。この活動は、里山の豊かな自然の中で心豊かに暮らしてきた先人の知恵や工夫に学び、平成二十九年三月を持って小学校が閉校する山内地域に対して、地域の記憶を力夕子にして希望ある未来へ繋げようとする作業でもあります。



すずか姫



昔の様子を記憶して、ふるさと絵図(絵屏風の基となるもの)に残したい理由が多くあります。

- ①お年寄りが語り部となつて絵解きをされるので、かつての地域の様子や豊かな経験の中での、地域の文化、支え合い、つながり、自然との共生を改めて伝えるツールになる。
- ②井戸から水を汲み、水路から風呂の水を運んだ暮らし等を知り、五感を使って追体験できることから、「もったいない」の意味や循環について考えることができる。
- ③聞き手の子どもたちや若い世代の人たちとの交流が生まれる。また、学校での出前授業や滋賀を訪問した都会の人たちにとって滋賀の環境文化について学ぶ機会になる。
- ④絵図学習により、子どもたちや若い世代が、ふるさとを自分の言葉で語れるようになり、ふるさとへの自信と誇りと感謝の気持ちが高まる。
- ⑤心象絵図は、回想法と呼ばれる手法の一つで、お年寄りの脳裏に刻まれた記憶を自らの力で再生することから、高齢者自身の介護予防、生き甲斐にもつながる。等です。

しかしながら、長年の聞き書きをこのように絵にしたら良いか、絵を描いてくれる人探しはたいへんでした。そして、本格的な製作は、平成二十八年秋スタートでした。

子どもたちの人間力育成 アクティブラーニングの場



次代を担う若い助っ人たちが、市外から集まってくれました。大学生や高校生、小学生たちです。猪鼻地区は、高校生による味わいのある絵に仕上がりました。「私の住む住宅街では地域の人の交流がない」といった都会育ちの子どもたちには、山内「地域課題解決型キャリア教育」地域におけるアクティブラーニングが、生徒の学力向上や地域の持続可能性

しかし、徐々に山内の方々の温かさ、優しさに触れる中で、「絵を描きに来ると、私のおじいちゃんやおばあちゃんもこのような暮らしをしていたんだなあ」「遠かった山内に親近感がわいてきた」と地域に対する愛着や誇りが持てるようになってきたとのこと。今、課題解決のひとつの方法として高校生や大学生のキャリア教育と地域活動のマッチング「地域課題解決型キャリア教育」地域におけるアクティブラーニングが、生徒の学力向上や地域の持続可能性

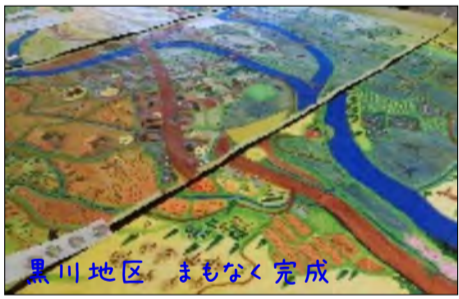
の向上のために成果をあげていると言われ始めています。学歴偏重をはるかに超える人間力や生き抜くためのレジリエンス力を育ててくれる場所や人が、地域にはあるのです。活動を通して得た気づきは、これからの自分自身の成長の糧としてきっと生かされていくでしょう。田舎道を歩きながら、笑い合ったり、お年寄りに聞き取りをした貴重な経験をしました【山内】にまた足を運んでくれるでしょう。

新しい春、子どもたちに大きな感謝と期待をしています。

地元の絵師(お宝)発見

平成二十八年度内に、三つの区(黒川・猪鼻・山中)を絵にしたいとの無謀な計画にあきれながらも協力してくださったのが、地元の方々でした。

特に救世主となったのが、奥ゆかしく絵や写真を趣味としながらも一代大工業を営んでこられた小林栄一さん(昭和一四年出生)でした。年末年始、自宅で記憶パーツを作成、完成までには他地



上出来上がっていました。戦後の進駐軍にチョコレートを買ったこと、子どもの頃に経験した遊び、「こんなことして叱られたなあ(笑)」と語りながら、地元に残る行いや東海道路筋ならではの風景を描いた絵のパーツを小林善一郎さん、服部長夫さんと三人で清書紙に埋めこんでいかれました。

この組、上の平と四つの字からできています。この四つの字をサイズの決まった長方形に和紙(180×400センチ)に描き下ろすには、予想を上回る難関でした。川、道などを、四つの字の折り合いを地元の方に聞きながら何度も何度も、下書きの和紙に書きなおしました。この状態を見かねた川西区の落合道夫さん(昭和十年出生)が「これでは黒川は(完成)できない、まずいやないか」と筆を持って、清書の和紙への転写、描画を担当してくださいました。測量のお仕事をされていただけあり、緻密な筆のタッチは尊敬の一言でした。絵のタッチがバラバラになるのを防ぐために、川西の絵ができればいいからつあるのを見図りながら中の組区や上の平の古者たちにも土壇場に家がトタン屋根が葉ぶきかの確認、記憶かたりの協力をしていたいただきました。

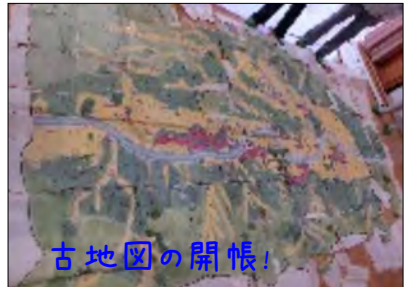
時代の流れの中で、地域固有の文化が急速に失われつつありますが、これからの地域のあり方で生かされるべきものがたくさんあります。ふるさと絵屏風は、ある集落や地域を対象として、そこに生きる一人ひとりの心に生きづく思いを集めて描く「地域の生活ものがたり」です。人々の心に刻まれたふるさとへの印象を表現するので、「心象絵図」とも呼んでいます。その土地の生業や生活風俗、祭りや行事、四季のうつろい等、絵屏風に刻まれる

ふるさと絵屏風とは

「百聞は一見に如かず」と言いますが、この絵屏風は、実際に経験した地域のエピソードについて、「その百聞を一見にした」とも言っています。

(滋賀県立大学准教授 上田洋平氏『ふるさと絵屏風をつくる』リーフレットより引用)

聞き書きを活用する時に問われるのが信憑性です。今おられる方々から



これは、明治八、九年当時の土地の納税のために使われたと思われるものでした。昔の和紙であったのか、虫食いがひどい状態でした。この古地図が出てきたことで、田んぼ、萱場、茶畑、山の様子が想定で、古地図と今まで行ってきた昭和初期の聞き書きとの整合を図り、加筆しました。

明治の古地図が大活躍

山内ふるさと絵屏風ができるまで

原形であった 昭和52年 山内小学校 若林憲秀校長監修 「ふるさと やまうち 第1版」
昭和53年 山内小学校 若林憲秀校長監修 「ふるさと やまうち 第2版」

年月を経て

平成20年 山内老人クラブによる昭和の古地図作成
平成21年 山内エコクラブが市民活動グループとして開始

平成23年 山内自治振興会 地域福祉部 名人発掘事業開始
振興会班員による34名への聞き取り

平成25年 山内自治振興会「山内名人マップ」完成
名人の古老「山内回想遺産グループ」立ち上げ(山内エコクラブ主宰)

平成27年 冊子「山内回想遺産」監修、製本
山内高齢者による昔の記憶五感アンケート実施 50件回収
(ゆうゆうクラブ協力)

ふるさと絵屏風研修会(高齢者対象)

平成28年4月 ふるさと絵屏風作成に対する地球環境基金からの助成決定
平成28年5月 ふるさと絵屏風実行委員会設立、ふるさと絵屏風作成委員会設立
絵の構図、地区選定(平成28年度は黒川・猪鼻・山中)

平成28年6月 成安造形大学協力依頼

平成28年7月 黒滝地区での立体ふるさと絵屏風作成開始(10月まで5回)

平成28年8月 今までの聞き取りからのパーツ選定

平成28年10月 和紙への下絵作成開始

平成28年12月 清書紙への転写、パーツ置き

猪鼻地区 清書作成開始

平成29年1月 山中地区 清書作成開始

黒川地区 清書作成開始

平成29年3月18日 絵図(原画)としての御披露目会、コンサート

これからも続く

平成29年4月以降 黒滝、笹路、山女原地区への絵屏風着手予定



H21から今も続く
聞き書き活動開始

沖縄系満・米須どもたちとの聞き書き

関西学院大学学生の聞き書き
山内6地区115名以上からの聞き取り

奈良教育大学学生の聞き書き
黒川市場の女性からの聞き取り

子どもたちによる
見える化
ジャンボ絵本
創作劇
創作狂言



黒滝地区での全員参加型立体絵屏風



懐かしの子どもの聞き取り H22頃



山内回想遺産メンバー



安土・老蘇地区
先行事例 研修会



五感アンケートを
カテゴリ分け



H27秋
山中区女性聞き取り



取り
黒川市場区女性聞き
取り H27秋



黒滝地区での
立体絵図作成



始まった下絵の下絵
山中地区 H28秋



絵のタッチの違いも
いいな



土壇場での上の平
への確認協力



それぞれの出来を
確認



緻密な作業に子どもたち
のお手伝いも・・・

絵を描いた方々

(敬省略)

- 全体企画・全体描画
 - 竜王真紀(黒川)
 - 井阪尚司(日野町)
 - 地域の描画メンバー
 - 小林栄一(山中)
 - 小林善一郎(山中)
 - 服部長夫(山中)
 - 落合道夫(黒川)
 - 村木清(黒川)
 - 竜王みやび(黒川)
 - 県内の描画メンバー
 - 山本大樹(成安造形大学大津市)
 - 野間寿江(水口町)
 - 西村慧(立命館大学甲南町)
 - 桑島真由美・杏奈(甲南町 題字担当)
 - 坂小百合(湖南市)
 - 鈴木麻衣子(成安造形大学大津市)
 - 瀬川実来乃(石山高校草津市)
 - 松吉咲季(石山高校近江八幡市)
 - 和田莉奈(石山高校大津市)
 - 黒滝立体絵図指導
 - 土山道夫(南土山)
 - 学術アドバイザー
 - 駒井文恵(土山民俗資料館)
 - 金井萬造(立命館大学)
 - 先行地区アドバイザー
 - 河崎凱三(草津市失倉)
 - 山本悦子(草津市失倉)
 - 助成 地球環境基金
 - 引用 上田洋平氏文献
 - 松村彩加(石山高校 東近江市)
 - 北勇聖親子(甲南希 望ヶ丘小学校)
 - 加藤優藍親子(甲南 希望ヶ丘小学校)
 - パーツ作成
 - 成安造形大学学生六名
 - 地元場所の確認
 - 野尻清(黒川)
 - 中ノ組の古老
 - 上ノ平の古老
 - 黒川市場の古老
 - 川西の古老
 - 山中の古老
 - 猪鼻の古老
 - 黒滝の古老

編集後記

「山内ふるさと絵屏風」は、多くの方たちの思い出話とともに、地域内外含めて二十名以上のアマチュア絵師で出来上がっていききました。アトリエのような公民館二階の製作場には、それぞれに味のある三文字の十枚の大きな和紙が並んでいて、日ごとに賑やかな絵になっていきます。入れ替わり立ち替わりで筆を持ちに通っていた地域の方や県内の有志の方、学生の皆さんには、申し訳ない気持ちもある中、「大変だったけど、楽しませてもらったわ」と完成後の地元絵師さんの言葉に胸をなでおろす思いでした。地域づくりには、絵屏風だけでなく、関わってくださった多くの方の山内への熱い想いも地域創生のツールになります。「なあんもない山内」から、ひとつの宝物ができたことで、私たちの心の中に大きな自信が生まれました。絵屏風は、これからの活かし方が大切だと思っています。「自信と誇り、愛着」が詰まる絵屏風を活かした新たな地域づくりが始まります。絵屏風製作では、山内地域市民センターを製作場として開放してくださった甲賀市、細かな気配りをいただいたセンター職員様、そしてご理解ご協力をいただいた区民の皆様にも心より感謝を申し上げます。